

くつろぎタイム

vol.230 2025.5

編集・発行：八頭町立図書館

郡家図書館 八頭町宮谷 256-4
船岡図書館 // 船岡 539-1
八東図書館 // 北山 48-1

美術館へ行ってみよう！

鳥取県立美術館がオープンしましたね。

もう行った方も、これからだという方も、

美術館のことをもっと好きになる、おすすめの本を紹介します。



『美術館にもぐりこめ！』

さからあつこ／文 さげさかのりこ／絵 福音館書店

町の郊外にある「ふしぎ美術館」にやって来たのは、泥棒3人組。美術品を狙った泥棒たちは、館内をあちこち探索しますが、美術館は、明日から始まる企画展の準備の真っ最中です。

この本では、企画から展示まですべての作業を受け持つ学芸員の仕事や、美術品を守るための工夫等、美術館のことを泥棒目線で(?) 楽しく学べます。子どもはもちろん、大人も楽しい「たくさんのふしぎシリーズ」の1冊です。

『アンディ・ウォーホルの基礎知識。』

マガジンハウス

鳥取県が県立美術館の目玉作品として、アンディ・ウォーホルの「ブリロの箱」5個を3億円で購入したニュースは、賛否両論あり、大きな話題となりました。美術館では、この「ブリロの箱」をこれからも県が所有するべきかを問う来館者アンケートもされているとか。「芸術の価値って、正直よくわからない」という方は、この本を参考にしてみてくださいはいかがでしょう。

『デトロイト美術館の奇跡』

原田マハ／著 新潮社

半年前に妻を亡くしたフレッドの楽しみは、デトロイト美術館へ通うこと。妻との思い出の場所であり、そこで出会った作品たちは友人のような存在でした。しかし、市の財政破綻の影響を受け、作品が売却されるといいます。

一枚の絵画が、美術館に通う老男、コレクター(作品収集家)、キュレーター(学芸員)を繋ぎ、思いもよらない奇跡が生まれます。実話を元に書かれた物語です。

『日本のミュージアムを旅する 企画展だけじゃない!』

後藤さおり／著 天夢人

全国の美術館の所蔵コレクションや、多彩な魅力を紹介した1冊。各地へ旅する際、目的地のひとつに美術館を加えてみるのもいいですね。